

横浜市立南希望が丘中学校 平成30年度学力向上アクションプラン

1. 学校の状況と地域の課題

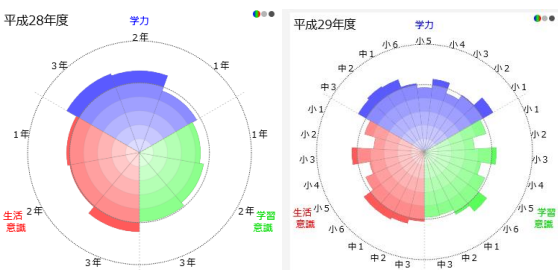
- (1) 生徒は全体に明るく落ち着いた学校生活を送り、集団としての質も高い。
- (2) 基本的な生活習慣が身につけており、生活面での規律も守られている。
- (3) 学習意欲に関しては、学習本来の楽しさや各教科への興味・関心にとまなう学習意欲ではなく、成績や進路活動に対する緊張感から、学習に向かう傾向がある。生徒間のコミュニケーションを通して、お互いに自らの考えを発表し、達成感や自己肯定感を引き出すような主体的な学びを導き出す授業展開の工夫が引き続き求められる。学力面では、2・3年では、市の平均を超える状況にある。
- (4) 学校行事への取組は意欲的ですが、生徒の主体性を伸ばし、望ましい学級集団形成の重要な場面となっている。
- (5) 部活動への関心は比較的高く、加入率も高く、生徒が自分らしさを発揮できる場として重要な役割を果たす教育活動となっている。集団としての秩序や規律の面も培われている。
- (6) 生徒指導面での課題は相互コミュニケーションである。互いの良さを認め合い学び合う姿勢、言葉を通して人間関係力を育む指導の工夫が求められている。
- (7) 校区は成熟した自治活動が行われる地域で、学校も地域と密接なつながりをもっている。生徒は積極的に地域活動に参加する土壌が育っている。地域の豊かな人材や高い教育力を学校教育に今後も取り入れ生かしていきたい。

2. 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

学力向上に関する指導の目標・方針（平成30年度末の姿）

- 生徒が相互に学び合う場を工夫した授業で達成感、自己肯定感を高めると共に、他者も認められるような集団全体を伸ばす指導を図ります。
- 各教科では授業研究等の場を活用して、「わかる授業」実践のため指導技術の向上に取り組みます。
- 学校行事や特別活動・部活動の充実を図り、自他を認め共に成長する生徒集団を育成します。
- 学校・家庭・地域の協働による活動実践を通して、まちとともに安心して学習できる学校づくりを目指します。

3. 横浜市学力学習状況調査等からの平成29年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

学習意欲に関しては、進路活動への意識からか、学年が上がるにつれて、高まる傾向がみられる。それに伴い、学力面でも学年が上がるにつれて良い成果が見られ、2、3年では、市の平均を超える状況にある。学習意識、生活意識の傾向が各学年の学力に反映されていると分析できる。

(2) 教科学習の状況（課題）

- 国語科：2・3年生の各観点の理解は高い。1年生では、どの観点も平均的である。
- 社会科：3年生の学習意識、各観点の理解は高い。1・2年生では、平均的である。
- 数学科：2・3年生は学習意識に比べ、各観点の理解は高い。1年生は平均的である。
- 理科：3学年とも各観点の理解は高い。
- 外国語科：各学年ともに各観点の理解は高まっている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めての分析）

本校の特色として、学年が上がるにつれて学習意欲が高まる傾向がある。しかし、それはすなわち学習本来の楽しさや各教科への興味・関心にとまなう学習意欲ではなく、成績や進路活動に対する緊張感から、学習に取り組んでいることを意味している。本来あるべき学習意識を高めるため、生徒が興味・関心を持てる授業、本来持っている学力をしっかりと引き出す授業を展開し、将来の夢や目標を支援・指導できる計画が必要である。また、生活意識は各学年ともに市平均より高い。これは、学校行事や部活動等を通じた自己有用感が向上していることが理由の1つである。今後も、話し合い活動を通してコミュニケーション能力を育てる活動場面を設定し、自分の考えを表現する機会を増やし、達成感、自己有用感を育む授業実践に努めていくことが必要である。